HCニューズレター

No.10

Human Care News Letter

2009年3月 日本ヒューマン・ケア心理学会

学会新体制の発足

会長就任のご挨拶

筑波大学人間総合科学研究科教授　小玉 正博

日本ヒューマン・ケア心理学会創設以来、高い見識と強力なリーダーシップによって本学会を牽引されてきた岡堂哲雄先生が10周年を節目に会長職をご勇退され、私がその後任を引き継ぐことになりました。本学会は、岡堂先生を中心に、看護医療領域に関わりをもつ心理学者たちが集い、看護医療領域での心理学的諸問題について勉強する看護心理学研究会としてスタートしました。その間、日本心理学会においてワークショップ等を重ねながら仲間を結集し、日本ヒューマン・ケア心理学会が創立されました。聖路加看護大学で開催された創立大会で、日野原重明先生に記念講演をお願いしたことなど、懐かしく思い出されます。これまでの岡堂会長のご努力に敬意を表するとともに、力不足ながら、偉大な会長の後を引き継ぐものとして、身の引き締まる思いです。

本学会は人間で言えば、ようやく思春期にさしかかった段階です。これからさまざまな課題について自立的にそれを解決していかなければなりません。その最大の課題は同志の結集、つまり新会員の獲得と活動の拡大です。近年、医療系大学を中心に、「ヒューマン・ケア」という名称の学部や学科、コースの開設を耳にします。こうした情勢は、本学会の活動を広く社会的に認知させていく絶好の時期ではないかと思います。

幸い、今年度から学会誌「ヒューマン・ケア研究」が年2回発行されます。ヒューマン・ケア心理学の学術的方向性と科学的根拠を与えるためにも、さらには入会員増加のためにも、会員の研究成果を年2回の学会誌発行によって情報発信していくことはきわめて重要な意味があります。また、情報発信と情報交換のためには、学会の情報インフラを充実整備する必要がありますが、会員の皆様と手を携えながら、こうした課題に積極的に取り組んで行く所存です。ご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。



日本ヒューマン・ケア心理学会
第2代会長 小玉正博先生

日本ヒューマン・ケア心理学会役員（2008年9月より）

※常任理事

会長　小玉 正博　筑波大学大学院人間総合科学研究科（心理学系）

理事　足立 久子　岐阜大学医学部看護学科
安保 英勇　東北大学大学院教育学研究科
石川 利江　桜美林大学国際学研究科
井部 俊子　聖路加看護大学看護学部
※岩崎 祥一　東北大学大学院情報科学研究科認知心理情報（学術集会・ｗｅｂ担当）
※遠藤 公久　日本赤十字看護大学看護学部（編集担当・編集委員会代表）
岡堂 哲雄　聖徳大学大学院臨床心理学研究科
※長田 久雄　桜美林大学大学院国際学研究科（研修担当等）
小山田 隆明　岐阜女子大学文化創造学部
※木村 登紀子　淑徳大学総合福祉学部（学術集会担当・年度大会関連の連絡調整）
後藤 宗理　名古屋市立大学大学院人間文化研究科
志賀 令明　福島県立医科大学看護学部
島井 哲志　心理測定サービス・健康心理学研究所
※清水 裕子　首都大学東京健康福祉学部看護学科（事務局長・庶務・会計等の事務総括）
菅 佐和子　京都大学大学院医学研究科
※廣瀬 清人　聖路加看護大学看護学部（広報担当・ニューズレターの発行等）
堀毛 裕子　東北学院大学教養学部人間科学科
三田村 啓子　修学院ことばと子どもの相談室たかきたクリニック
山崎 登志子　広島国際大学看護学部

監事　飯田 澄美子　聖隷クリストファー大学看護学部
藤澤 伸介　跡見学園女子大学文学部

以上、アイウエオ順

顧問　岡堂 哲雄　聖徳大学大学院臨床心理学研究科

チーム医療とヒューマン・ケア

第10回 大会報告

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻 教授
菅 佐和子

日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会を、平成20年9月13・14日、京都大学医学部人間健康科学系専攻において開催させていただき、150人を越えるご参加を得ることが出来ました。熱心にご参加下さいました皆様、準備・運営に御協力頂いた皆様に、厚く御礼申しあげます。

本大会では、『チーム治療とヒューマン・ケア』をテーマとして、対人援助に関わる多様な職種が、職域の垣根を越えて本音で交流できる場を目指しました。

そのため、特別講演として京都大学名誉教授・京都ヘルメス研究所所長の山中康裕先生に「こころのケアの本質とは」、教育講演として本大学院教授の十一元三先生に「広汎性発達障害の対人相互性の問題」という、何れもヒューマン・ケアの根幹に関わるテーマで御講演をいただきました。これらの講演には、会員外の参加者も多く、これを契機に本学会への入会を希望される方々もみられました。

また、シンポジウムにおいては、「チーム治療の発展と深化を目指して――現場からの提言」というテーマで、看護、心理臨床、作業療法の各立場からの実践報告と、日本作業療法士協会副会長・本大学院教授の山根 寛先生による指定討論、フロアとの質疑応答が活発に行われました。

研修会では、筑波大学大学院教授・本学会常任理事（現会長）の小玉正博先生を講師として「臨床現場に根ざした研究開発の方法論」という研修が行われました。この研修会には定員を越える参加者があり、大変好評を頂きました。

大会の準備・運営には、不行き届きな点も多かったと存じますが、皆様の温かい御支援のおかげで記念すべき第10回大会が無事に遂行できましたことに心より感謝申し上げます。

（大会長 菅 佐和子）



特別講演 山中康裕先生

特別講演

「こころのケアの本質とは」

京都大学名誉教授・
京都ヘルメス研究所所長 山中 康裕

医療においてはキュア、看護においてはケアという概念が重視される。心理療法の場合は、コアを標榜することを長年に亘って提唱してきた。その理由は、医学的・生物学的・身体的なキュアや看護学的ケアに対して、人間の「こころ」や「たましい」の領域に働きかけるものであり、それこそが核心（コア）であると考えるためである。

（このような観点から、精神科医として、かつ臨床心理士として出合ったさまざまな印象深い事例を通して、「こころ」の癒しの本質とは何かが語られた。山中先生の情熱あふれる語り口、会場を縦横に移動されての参加者との対話に、時間を忘れて引き込まれ、熱い思いを共有できた講演会であった。）

教育講演

「広汎性発達障害の対人相互性の問題」

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻教授　十一 元三

自閉性障害とアスペルガー障害の異同については、明確な結論が出ず、すべてを包括する概念として広汎性発達障害という概念が登場した。その中核をなすのは、対人相互性（共感能力、レスポンス能力、コミュニケーション能力、社会性）という、つかみどころのない概念であった。これは、定型発達においては自明のものであるが、本障害の診断にはこの視点が不可欠である。本障害は、診察室の中で治療が出来るものではなく、コメディカル、教育畑、行政等の継続的な支援が不可欠である。

（このような観点から、豊富な事例に基づく治療・援助のポイントが詳細に語られ、フロアからも実践に根ざした質問が出され、充実した研修となった。）

（大会長　菅 佐和子）



教育講演 十一元三先生



研修会　小玉正博先生

研修会

「臨床現場に根ざした研究開発の方法論」

筑波大学大学院教授 小玉 正博

研修会は36名の参加者を得て、2時間30分にわたって行われた。内容は、ヒューマン・ケア領域の研究方法論について、講師の主要な研究を題材としながら説明があった。ヒューマン・ケアの研究テーマは、常に人とのかかわりの中から発見され、その研究過程は①研究結果を解釈し、ケアの実践に生かす、②ケア実践を評価する、③研究を実践する、の三つのステップが考えられる。具体的な方法として質的研究方法が多用されているが、その調査手法は、調査者の立場の明確化がデータの妥当性と研究的態度との関係から重要である。また、分析方法は研究者のセンスの問題ともいえるが、妥当性の高い分析を行う必要性を強調された。さらに主観を冷静に分析する態度と客観的な考察との整合性を必要とするとの見解を示された。質疑応答も活発に行われ、ヒューマン・ケア研究方法についての会員の期待の大きさが感じられた研修会であった。

（事務局長　清水 裕子）

顧問のご紹介

本学会の発案者で創立以来、会長でおられた岡堂哲雄先生は、9月14日(日)、京都大学で行われた第10回総会において会長を辞任された。その後、会則第10条に基づき、第4期第1回常任理事会において、顧問に推挙され、会長が委嘱された。次回第5期理事会において、正式承認される。尚、既に第3期理事会において、理事としての承認を受けておられ、役員を併任される。

名誉会員のご紹介

9月14日(日)、京都大学で行われた第3期理事会において、上野矗（ヒトシ）氏（大阪樟蔭女子大学・医学博士）が名誉会員に推挙され、同第10回総会で承認された。上野氏は1967年に東北大学大学院を修了され、大阪教育大学などにご勤務の後、現在に至っている。氏は経験的現象学的方法による病床の臨床心理学を専門とされ、98年には特殊教育功労者として文部大臣表彰をうけられた。本学会には98年に入会、99年5月学会設立発起人会22名の一人として設立趣意書に名を連ねられ、聖路加看護大学（99年10月）における創立大会の実現に貢献された。その後も第1期・第2期に渡り常任理事を歴任され、特に第1期では機関誌編集担当理事として、学会誌ヒューマン・ケア研究の創刊に尽力された。現在、会員数は学会誌創刊時の二倍に増加し、学会誌も9号を発刊するに至った。これまでに上野氏の貢献なくして、学会の発展はなかったといえる。よってここに学会へのご貢献を感謝し、名誉会員として顕彰し、感謝状を贈呈した。

（事務局長　清水 裕子）

日本ヒューマン・ケア心理学会 第11回大会のご案内
〈ケアとコミュニケーション〉

日程…２００９年７月19日(日)・20日(月)
会場…東北大学・教育学研究科総合研究棟
第11回大会準備委員会委員長…岩崎 祥一(情報科学研究科)
副委員長…安保 英勇(教育学研究科)

メインテーマ…「ケアとコミュニケーション」

招待講演　吉岡 泰夫(国立国語研究所)
「良好な患者・医療者関係を築くコミュニケーションとは」
教育講演　野呂 幾久子(東京慈恵会医科大学)
「インフォームドコンセント説明文書を分かり易くするには」
シンポジウム「ケア現場でのコミュニケーションを巡る諸問題」
研修会　「事例研究の進め方」(仮)〈講師 木村 登紀子〉

今後のスケジュール
１ 大会案内の送付　３月下旬
２ 演題申し込み(払い込み)　締め切り…５月15日
３ 予約参加申し込み(払い込み)　締め切り…５月15日
４ 抄録原稿提出　締め切り…６月15日

日本ヒューマン・ケア心理学会第11回大会を、２００９年７月19日・20日に東北大学大学院情報科学研究科(岩崎祥一)と東北大学・大学院教育学研究科(安保英勇)の共同で開催させていただくことになりました。私(岩崎)の所属する情報科学研究科は、コンピュータの情報処理を中心とする研究を行っている工学系の研究科ですが、そこには哲学・社会学・経済学など文系の専門分野も含まれております。私は、認知心理学を専門としており、ヒューマン・ケアに直接関わっている訳ではありませんが、情報科学を専門とする研究科に所属することもあり、日頃からケアにおけるコミュニケーションの問題について考える必要性を感じておりました。そこで、本大会のテーマを「ケアとコミュニケーション」とすることとしました。ぜひ、多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

大会開催時期の仙台は、梅雨末期に当たっており、あるいは天候に恵まれない恐れも多分にあるかと思われますが、その分、南からおいでの方には梅雨時の北国の涼しさをご実感いただけると考えております。第11回大会が、会員皆様の研究や日常業務にいささかでもお役に立つことを準備委員会一同心より願っております。

連絡先…〒980-8597　東北大学大学院情報科学研究科
第11回大会準備事務局　☎022-217-4564
siwasaki@cog.is.tohoku.ac.jp
第11回大会準備委員会委員長　岩崎 祥一

「ヒューマン・ケア研究」投稿論文募集

「ヒューマン・ケア研究」は２００８年度より年間２回の発行になりました。原稿は常時受け付けておりますので、積極的な投稿を期待しています。詳細は学会事務局にお問い合わせください。

(編集担当　遠藤 公久)

Web担当からのお知らせ

「ヒューマン・ケア研究」の投稿関係の書類が更新され、ヒューマン・ケア心理学会のホームページに掲載されております。投稿の際にはご利用下さい。

これ以外にもWeb掲載を希望する情報についてご提案がありでしたら、私宛、お知らせ下さい。

現在、会員向けに限定したサービスとして「ヒューマン・ケア研究」に掲載されている原著論文(２０００-２００８)がWebからダウンロードできるようになっております。ご利用下の際には以下のIDとパスワードを入力する必要があります。なお、パスワードは、会員以外にはお知らせにならないで下さい。

ID：HCkaiin2009
パスワード：x2a0w0q9(大文字、小文字は区別されます)

なお、このID及びパスワードは、２００９年４月１日より有効となります。それまでは前年度のID及びパスワードをお使い下さい。

(Web担当　岩崎 祥一)

編集後記

会長の交代と常任理事の一部、若返りにともない、思いがけず広報担当となりました。今回は、小玉会長と清水事務局長、事務局の田中さん、そして原稿をお寄せくださった先生方の大きな協力の賜物によって、なんとか編集作業が無事におわり、ほっとしております。ありがとうございました。

(広報担当　廣瀬 清人)

●学会へのお問い合わせ、連絡、「ヒューマン・ケア研究」への論文投稿は左記の事務局にお願いします。

〒113-0033
東京都文京区本郷2-38-14　TKビル5F　プライムアソシエイツ気付
日本ヒューマン・ケア心理学会　humancarepsy@primeassociates.jp
Tel／03-5805-0527　Fax／03-3812-5187